

畑作技術情報

発行 令和8年6月15日

第6号

たいせつ農業協同組合

営農部 農産販売課

本所 営農センター 57-2357

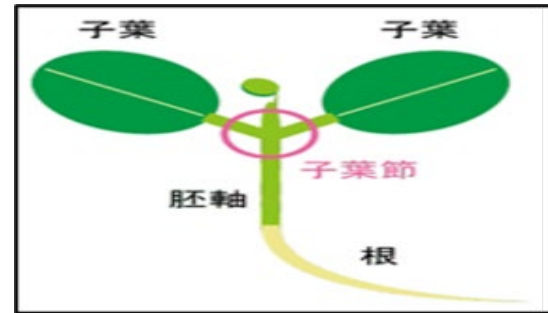
支所 営農センター 87-4111

2 中耕除草剤の実施について

中耕除草の効果として、除草や地温上昇による大豆の発根促進のため、中耕を実施しましょう。

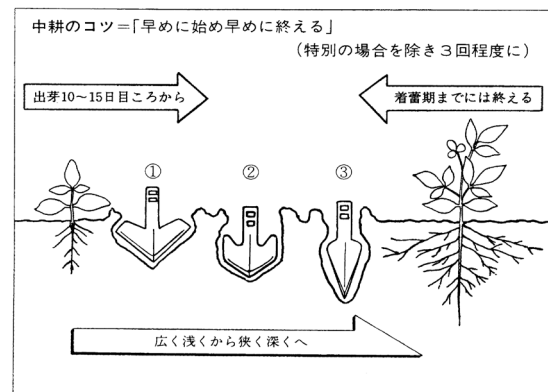
① 1回目

- ・除草剤の効果を検討しながら、出芽後10～15日頃までの暖かい日に行いましょう。
- ・子葉を傷つけると生育に影響するため、注意して行いましょう。



② 2～3回目の中耕

- ・雑草の発生状況と降水量、発根状況を考慮しながら、徐々に狭く深く行います。
(乾燥時：浅めに中耕、多湿時：やや深めに中耕)
- ・過湿により根傷みや根腐れを起こした場合は、土寄せを行い、土壤の乾燥と地際部からの新根の発生を促します。
- ・着蕾以降の中耕は断根による落花・落莢・若返り（生育の遅延）などに繋がるため、着蕾期（平年：7月初旬）より前に、最終の中耕を終えましょう
- ・秋まき小麦の大豆間作栽培を予定している場合は、畦間に小麦種子が集中するので、大きな土寄せは避けるようにしましょう。



農作業事故について

※農作業中の事故に注意を払いましょう！

大型機械を使った作業が一段落したところですが、道内ではとても痛ましい事故が起きているところもあります。早朝や夜遅くの作業は注意力が散漫になり、視界も悪くなるため普段は平気な場所での作業も、事故のリスクが高まります。やむを得ず作業を実施する場合は細心の注意を払い、万が一事故が起きた場合に備えて携帯電話等は必ず所持しましょう。